

**文庫あれこれ**◆今日は9月9日重陽の節句、菊の節句。菊というと、お墓や仏壇に供えるものと思いがちですが、昔は菊人形など見にいきましたね。◆空にはだんだんふくらんでいく月がかり、昨夜は鈴虫の鳴き声も聞こえました。一茶の句に「涼風やカ一ぱい きりぎりす」というのがあります。インソップのキリギリスを思い出してしまいました。◆台風12号がゆっくり進んでいる中、利尻、礼文の旅に行ってきました。函館はどしゃぶり、雨のオランダ坂ならぬ、函館の急坂道を濡れながら教会めぐりをしました。出発前からたっぶりきこしめた夫さんは歩くのはいやだ~と言っていました、やっぱり、海が眼下に開ける風景はいいですね。◆利尻富士を見るのが念願だったので、翌日、空路とフェリーで利尻~礼文島へわたり、山が舞台にしゃきっと姿をみせたのはほんの数時間でしたがその雄大さには満足。◆10日開館の日、前日東京に帰り、10時少し過ぎ、帰ってきたら、もうスタッフ4人の方が文庫のお掃除をすませてくださっていて。本当に有り難い。◆今月も新刊のほかスタッフNさんの読書仲間が180冊ほど寄贈くださいました。皆さんの読みたい本がきっと見つかります。◆今日はよい天気。2、3日秋の気配が強かった大室の夏の名残の暑さが戻ってきた感じです。◆新学期も始まり、子どもたちは元気に来てくれることでしょう。みんなひとまわり遅しくなって。(西村)

### 新しくいただいた大人の本 その2

**Nさん続き**：『人は負けながら勝つのがいい』(山本周五郎著 学陽書房)『信長の棺』(加藤廣著 日本経済新聞出版社)『陰日向に咲く』(劇団ひとり著 幻冬舎)『湖の南』(富岡多恵子著 新潮社)『花まんま』(朱川湊人著 文藝春秋)『黄金旅風』(飯嶋和一著 小学館)『赤土に咲くダリア』(日原いずみ著 ポプラ社)『電車男』(中野独人著 新潮社)『ジャンプ』(佐藤正午著 光文社)『わたしたちが孤児だったころ』(カズオ・イングロ著 早川書房)『あなたのそばで』(野中柊著 文藝春秋)『GO』(金城一紀著 講談社)『デッドエンドの思い出』(吉本ばなな著 文藝春秋)『すじぼり』(福澤徹三著 角川書店)『きみは誤解している』(佐藤正午著 岩波書店)『犯人に告ぐ』(栗井脩介著 双葉社) ※まだまだたくさん……

**別のNさんから**：子どもの洋書の絵本たくさんいただきました。そのうち、書架に並べます。

### ☆これからの催し物☆

#### 10月

秋の夜長のおはなし会：ゲストによる朗読・語り  
10月15日(土) 17:00~19:00  
プログラム

握手(井上ひさし)：語り・神保さん(ゲスト)  
大つごもり(樋口一葉)：語り・横山さん(ゲスト)  
けい子ちゃんのゆかた(庄野潤三)：朗読・吉川さん(会員)

#### 12月

★クリスマスお楽しみ・おはなし会(12月18日)

### ☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆10月は通常。15日(土)、16日(日)  
○15日はおはなし会ですぞ!
- ◆11月は通常。19日(土)、20日(日)
- ◆12月も通常。17日(土)、18日(日)
- ◆来年1月通常。14日(土)、15日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時  
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。  
午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》みんなで勉強会(おはなし・沙羅)  
開館土曜日 11:00~13:00

★子どもたちにおはなししてみたい方、読書ボランティアの方、おでかけください。  
ただ今、クリスマスのためのおはなしを憶えています!

今年度から、会費をあげさせていただきました。いただいた会費をもとに、活動できるよう、努力していきたいと思っております。ご了承ください。

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

# 沙羅の樹文庫だより



### 利尻富士

礼文島からフェリーで利尻島への海路で。前日も、このあとも間もなく雲に隠れてしまったのですが。写真ではかすんで見えますが、とてもくっきりと美しく見えた数時間でした。(さ・ら)

### 中秋月 蘇軾 作

暮雲收盡溢清寒  
此生此夜不长好

銀漢無聲轉玉盤  
明月明年何處看

日暮れ時、雲はすっかり無くなり、心地よい涼風が吹いている銀河には音も無く玉の盆のような月があらわれた

こんな楽しい人生、楽しい夜、しかし永遠に続くものではない来月は、来年は、どこでこの中秋の月を見ているだろう

9月12日(月)は中秋の名月のようです。漢詩なんか、高校で習ったきりですが、これは、わかりやすい詩ですね。

これからの  
催し物 ☆  
今月  
♥海の日のお  
はなす

## お借りした本についての読後

2011年9月7日 By 森林浴

サン・テグジュペリ 伝説の愛 アラン・ヴィルコン  
ドレ著 鳥取絹子訳 岩波書店 2006. 6. 刊

「夜間飛行」・「星の王子様」などを書いたアントニオ・サン・テグジュペリとその妻コンスエロの愛と懊悩を、写真や書簡、電報、スケッチなどをふんだんに織り交ぜて描いたノンフィクション。サン・テグジュペリは自由と砂漠と空とそして孤独を愛した飛行機野郎。

コンスエロは彼の正式の妻でありながら、常に不安定な立場におかれていた。アントニオは終生自分の母（つまりコンスエロには義理の母）に強いマザーコンプレックスを抱いていたし、またアントニオには別に永年の愛人ネリーがいた。アントニオ・サン・テグジュペリがフランス人として、ナチスドイツとの戦いに参加、コルシカ島から飛び立った偵察飛行中に行方不明となり、そして永遠の死を遂げたことが認められた後、コンスエロは永年忘れ去られた存在になった。彼女が戦争中にいた New York から持ち帰ったアントニオの大型トランクには、2人の愛の手紙、電報、スケッチ、写真などが山のように入っており、これらが公開されることによって、夫婦の若干奇妙だが深い愛情関係と、コンスエロという強い感受性と芸術感覚に富んだ女性の姿が広く知られることになった。この本はコンスエロの復権を狙ったものであったのかもしれない。中に出てくる写真の手紙や電報はすべてフランス語なので、フランス語が読めると一層趣が深まりそうだ。

この本は紙が厚くて重いし、文章は横書きだし、翻訳がいまひとつこなれていないところもあって読みにくく、読み通すのには、若干苦勞しましたね。

大人の本・たくさん寄贈をいただきました。その中から10さんから：『日主再会』『一矢の秋』『覇者』（佐伯泰英著）『ふたり静』（藤原緋沙子著）『闇夜の梅』（井川香四郎著）『遠い橋』（澤田ふじ子著）※すべて文庫本

Nさんから180冊：『鳥類学者のファンタジア』（奥泉光著 集英社）『河岸亡日抄』（堀江敏幸著 新潮社）『狂王の庭』（小池真理子著 角川書店）『火花-北条民雄の生涯』（高山文彦著 飛鳥新社）『タチコギ』（三羽省吾著 幻冬舎）『民主と愛国』（小熊英二著 新曜社）『哀しい予感』（吉本ばなな著 角川書店）『出口のない海』（梶山秀夫著 講談社）

2. 「日本中枢の崩壊」 古賀茂明著 講談社 2011. 5. 刊

官僚制度を批判して干された経済産業省の役人による官僚・政治家の糾弾の書ということで注目を浴びた本。私は「最終章 起死回生の策」をよく読むようにしたが、この人はポイントをよく捉えている。

こういう本で思い出すのは、18年前に評判になった、もと厚生省の役人で役所の実態をあげき徹底的に批判した、宮本政次氏の著書「お役所の掟」である。日本では属している組織に刃向かうのはとても危険なことである。彼は役所で厄介者として嫌われた挙句、首になり結局は結腸癌になって死んだ。古賀氏もかつて大腸がんに襲われたらしいが、要するに官僚としては、「干されて」しまったのである。

いつも思うのは、会社には株主代表訴訟という制度があり、誤った経営で会社、ひいては株主に損害を与えた役員は、（退職後も）株主に訴追されて、個人で損害賠償を支払う危険性を負っている。（東京電力の現・元役員には今からこの危険性がある。もう辞めた昔の役員も追及され得るのだ。）高級官僚にもこのような追求ができるような制度を導入できないものか。年金問題で、過去の厚生省幹部のいい加減な仕事後に大問題を惹起したことが判明したときに、思ったことでした。

3. 「ロスト・シンボル」上・下 ダン・ブラウン著 越前敏弥訳 角川書店刊 2010. 3. 刊

この著者は秘密結社をよく材料に使う。2003年に大ヒットした「ダ・ヴィンチ・コード」は Templar 騎士団という秘密結社とモナリザの絵、今回は秘密結社フリーメイソンと米国ワシントンにある連邦議会議事堂の謎めいた設計図、古来人類が求めてきた究極の知恵“古の神秘”——何か面白そうな要素がそろっているなと思って期待したが、この本の主題はある意味ではワシントンという米国の首都に潜む思いもよらない数多の「事実」であろう。上巻では唯一の悪役＝犯人（マラークという男）がトルコの刑務所に居たただの麻薬常習犯ということなので、何だかがっかりしてしまいましたが、下巻でそれが思いもかけない展開になる。しかし犯人が求めた“古の神秘”が結局は「言葉」ということと判明し、それが「ラウス・デオ＝神を讃えよ」というだけの最期の締めとなって、何か気が抜けた感じになってしまいましたが。

## 新しく入った大人の本

『半島へ』（稲葉真弓著 講談社）『馬たちよ、それでも光は無垢で』（古川日出男著 新潮社）『そこへゆくな』（井上荒野著 集英社）『鞍馬の馬』（辻原登著 日本経済新聞出版社）『紅梅』（津村節子著 文藝春秋）『昭和二十年夏子供たちが見た日本』（梯久美子著 角川書店）『スティープ。ジョブズ 脅威のイノベーション』（カーマイン・ガロ著 日経BP社）『向田邦子の陽射し』（太田光著 文藝春秋）『子どもへのまなざし』（佐々木正美著 福音館書店）『までの力』（「までの特別編成チーム」企画編集 SAGA DESIGN SEEDS）※村全員が避難撤去した福島県飯館村の在りし日の自主独立で、かつ、までの振りはこちら大室でも学び共感できるのでは。

『ハッピー・リタイアメント』（浅田次郎著 幻冬舎文庫）『東京震災記』（田山花袋著 河出文庫）『日本の放浪芸』（小沢昭一著 岩波現代文庫）『霧夜のなごり』（千野隆司著 ハルキ文庫）

『雪のひとひら』（ポール・ギャリコ著 新潮文庫）『ふしぎなふしぎな子どもの物語』（ひこ田中著 光文社新書）※こどもの本を通じて、世の移り変わりに敏感にこどもが反応して代わってゆく様子がわかる。

## 新しく入った子どもの本

### 絵本

『くらやみえんのたんけん』（石川ミツ子さく 二俣英五郎え 福音館書店）『いちばんでんしゃのしゃしゅうさん』（たけむらせんじ文 おおともやすお絵 福音館書店）『たいらになった二つのやま』（ビーゲンセン作 石川えりこ絵 絵本塾出版）※版元寄贈『きょうりゅうのおおきさ』（富田幸光監修 岡本三紀夫イラスト ひさかたチャイルド）

### 読み物

『山のトムさん』（石井桃子作 福音館文庫）※ネコ好きさんに！

『ドラゴンキーパー 最後の宮廷龍』『ドラゴンキーパー 月下の翡翠龍』（キャロル・ウィルキンソン作 金の星社）※1巻目の『ドラゴンキーパー紫の幼龍』（在庫）をあわせて3巻揃いました。歴史ファンタジー。古代中国に興味ある人、大人も読んでください。懐かしい本いただきました

『ちいさいおうち』（バートン作）『だいじょうぶだいじょうぶ』（いとうひろし）※2冊小型本『魔女の宅急便』（角野榮子作）